



文系学部の教育を京都市内に統合移転させるため、岩倉キャンパスに移転した同志社中学校の跡地に建築し、2012年10月に竣工した延床面積が40,000㎡を超える建物です。教室、経済学部・経済学研究所の研究室・共同研究室、ラウンジ、食堂、購買、今出川キャンパス教務センター等がある複合施設であり、京都市営地下鉄今出川駅の改札口とは連絡通路で繋がっています。

建物中央部の2階から3階にかけて日本の大学では最大級のラーニング・コモンズを設け、また、4階全フロアが小教室と演習室になっています。

館名に用いた「良心」という言葉は、新島襄が『同志社大学設立の旨意』に「一国の良心とも謂ふべき人々を養成せん」「所謂良心を手腕に運用するの人物を出さんことを勉めたりき」と、同志社が行う教育として明確に記しています。また、同志社各学校には『良心碑』があり、同志社教育のシンボルとして新島

島の想いを今日に伝え続けています。21世紀における同志社大学の新しい教育体制の出発を象徴するこの建物に、同志社建学の精神を表す最も重みのある「良心」が用いられることとなりました。

楽真館
(同志社女子大学)



(竣工：2017年8月)



1963年1月に漏電のために焼失した家政館（1955年12月竣工）の跡地に、楽真館は建設されました。1964年4月に第1期工事、1966年1月に第2期工事が完成し、家政館の約5倍半の約2000坪（地下1階・地上5階）となりました。建物の名称は、コリント人への第一の手紙13章6節「不義を喜ばないで真理を喜ぶ」に由来しています。

約50年間にわたり同志社女子大学今出川キャンパスの中心的な校舎として機能してきた楽真館は、2013年8月より始まった今出川キャンパス整備計画に伴う建設工事の一環として2016年9月から建て替え工事が始まり、約1年の工事期間を経て完成しました。

新しい楽真館（地下1階・地上4階）は、同志社女子大学において初のラーニング・コモンズや、2000インチスクリーンを備えた講義室をはじめとする各種講義演習室、人間生活学科関連施設などによって構成されています。

外観は、国・登録有形文化財である栄光館やジェームズ館など今出川キャンパスの歴史ある建築物との意匠的な調和を図るために、レンガの風合いや特徴的なボードライスを基調とし、深い軒と勾配屋根を有するデザインになっています。